

## カジノあかん！ 市民大集合

「カジノあかん！ ギャンブルは危険 大阪の経済・暮らし・文化を守る市民大集合」が3月23日、豊中アクア文化ホールで開催された。主催は大阪カジノに反対する市民の会。私も会員であり、自転車で豊中を散策してから参加した。

ギャンブル依存症体験者の訴えのあと、カジノに反対する諸団体の連帯挨拶。大阪を知り・考える会の中野雅司さんが「商都大阪を博徒(都)にしたらあかん」という発言がここに響いた。中野さんは浪速の経済人として、カジノや都構想に反対するなど多彩な活動をしている。

笑福亭竹林さんの小話と司会により、二つの講演が続いた。まずは国学院大学名誉教授で、日本社会病理学会会長をつとめた横山實さんが、「国際カジノ企業の大阪進出の意図」と題して講演した。国際的なカジノ企業の大阪進出について、具体的かつシビアに問題を投げかけた。

次に、大谷大学社会学部教授の滝口直子さんが、「カジノができれば、誰が得するの？ 誰が被害を被るの？」と、国内での実践や海外の研究者の調査・研究をもとに話した。報告資料から、その一部を紹介。

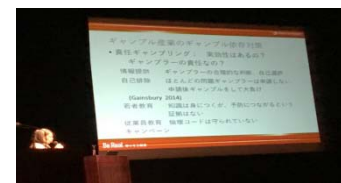
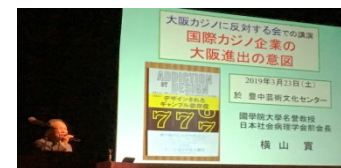
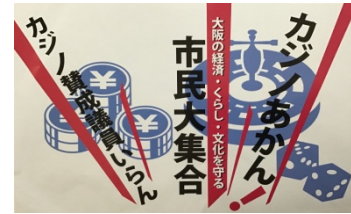
ギャンブルにハマった人がもたらす不幸な結末—多重債務、失職、離婚、家庭内暴力(DV)、子どもや高齢者の虐待、貧困、ホームレス化、犯罪、自殺(未遂)などなど。

ギャンブルをしない人が多く、苦しむ—1人の問題ギャンブラーは6人に、中程度のリスクは3人に、低いリスクは、もう1人の人に影響。ギャンブルをしない多くの人、例えば子どもが、苦しむことになる。

ギャンブルの治療プログラムは効果があるの？—ギャンブラーが回復の場に定着すれば回復率は高い。残念ながら世界的に回復の場に登場しない。登場するギャンブラーは10%、あるいは以下。

なぜ回復の場に登場しないの？—恥やスティグマ：勝つこともある：誰かがなんとかしてくれる：家族が不安のどん底で借金を肩代わりすると、借金はマジックのように消滅、「自分でなんとかなった」とギャンブラーは万能感を強める。

ギャンブルにハマるなんて、ギャンブラーが「悪い」？—ギャンブル障害(依存症)は、ギャンブル場(特にカジノ)の特徴やアクセスのしやすさ、マシーンのハマりやすい特徴と人間との相互作用で生じる。大規模カジノは自然光の入らない迷宮、特にマシーンは光、効果音、色、すべての特徴でギャンブラーを引き寄せる。「ニアミス」「勝ちと間違ふ負け」、そして紛らわしいプレイヤーへの還元率が問題。



(2019年3月28日)